

事務事業マネジメントシート（20年度実績と21年度計画）

21年度予算編成後 平成 21 年 5 月 19 日 作成
20年度決算把握後 平成 21 年 5 月 20 日 作成

事務事業名		若原線歩道整備事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連							
総合計画体系	政 策	1	人々が、安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	都市建設部	課長名	上原哲也				
	施 策	3	交通安全対策の推進			所属課	建設課	担当者名	歌野雅文				
	基本事業	10	交通安全施設の整備			所属班	工務班	(内線)	2275				
法令根拠													
予算科目	会計	1	款	8	項	2	目	3	事業連番	10047	☐ 20年度で終了 ☐ 21年度から開始	成果優先度評価結果	2
		コスト削減優先度評価結果										11	
事業期間		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)											
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)													
【事業の内容】 本事業は、西合志中央小、西合志中学校児童及び地域住民歩行者の安全を確保する為市道若原線L=771mの歩道設置をおこなう事業である。 【業務の流れ】 17年度～ ①地域より要望を受け、②現況状況の把握により必要性を検討、③測量設計業務、関係機関との協議、 18年度～ ④用地買収 19年度～ 1 現状把握の部(DO、PLAN)													
(1) 事務事業の目的と指標													
① 手段(主な活動)					21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN)								
20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO)													
・建物調査業務委託、不動産鑑定業務委託、用地交渉、関係機関との協議、道路改良工事													
					⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位)								
					→ ア 用地買収面積 m ²								
					→ イ 改良延長 m								
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等					⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)								
若原線道路					→ ア 全延長 m								
					→ イ								
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)					⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)								
歩道と車道を分離し快適・安全に通行できるようにする					→ ア 整備率 %								
					→ イ								
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか)					⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位)								
事故誘発の要因とならない道路になっている					→ ア 設置箇所数/地区からの要望箇所の内、必要と判断された箇所数×100 %								
					→ イ								
(2) 総事業費・指標等の推移													
		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ～ 年度			
投入量	事業費	国庫支出金	千円								総 トータル コスト (期間 限定 複数 年度 のみ 記載) 目 標 合 算 計 画 22 年度	0	
		都道府県支出金	千円										
		地方債	千円	4,536	22,210	39,600	39,600	35,100	27,000	27,000		150,910	
		その他	千円										
		繰入金	千円										
	一般財源	千円	504	2,470	4,400	4,400	3,900	3,000	3,000	16,770			
	(A) 事業費計	千円	5,040	24,680	44,000	44,000	39,000	30,000	30,000	167,680			
	うち指定経費	千円											
	うち時間外、特殊勤務手当	千円											
	人件費	正規職員従事人数	人	1	3	3	8	2	2	2		12	
	延べ業務時間	時間	280	540	540	820	200	200	200	1,680			
	(B)人件費計	千円	1,112	2,149	2,149	3,264	796	796	796	6,686			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	6,152	26,829	46,149	47,264	39,796	30,796	30,796	174,366			
活動指標		ア イ	m m	0 300	766 0	208.6 294	208.6 294	1718.18 294	300 300	0 477	2,993 400		
対象指標		ア イ	m	300	771	1071	1071	1071	1071	1071	400		
成果指標		ア イ	%	0	0	27	27	27	55	100	100		
上位成果指標		ア イ	%	90	92.5	92	92	93	95	95	95		
(3) 事務事業の環境変化・住民意見等													
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 地元要望により必要性の検討の結果、平成18年度から事業開始となった。													
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 事業開始時期は狭小であり、歩道が未整備で歩行者の安全及び車両通行に支障をきたしていた。今後は、拡幅・歩道整備をおこなうことにより、安心・安全に通行が出来る整備が必要とされる。													
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 地域住民並びに道路利用者からの道路拡幅の要望がある。													

事務事業名	若原線歩道整備事業	所属部	都市建設部	所属課	建設課
-------	-----------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部(SEE)＊原則は20年度の後評価、ただし複数年事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 道路改良後は、西合志中央小・中学校通学児童及び地域住民の安心安全な通行を確保することになり、道路ネットワークの充実に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 本路線は市道であり、安全かつ快適な通行を図ることは市の義務であるため妥当である。
	③対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 道路改良は、通行車両等において必要不可欠な事業であり、施行後は快適に移動できる手段として利用されるため、意図も適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 成果は事業が完成しないと発揮できない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) ☒ 影響有 ⇒【その内容】 改良を行わなければ、安全な通行に支障をきたすため、事業を廃止・休止することは地域の活性化を阻害することとなる。
	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 市道改良においては、庁舎内でも建設課のみ施工しており類似事業はない。
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 用地買収及び委託・工事積算においても、リサイクル法等の適用によりコスト縮減に努め経済比較を行いながら単価等の決定を行っているので余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 本事業は、積算業務等、外部に委託することで入札等に支障をきたす恐れがあるため、必要最小限度内において職員を分担している。よって正職員以外の職員は担当できない。
	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 地域はもとより市民の通行利用もあることから、公正であると判断できる。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 成果は事業が完成しないと発揮できない。
---	---

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 現在は一定区間の整備であり、今後において接続する市道の整備を推進し、アクセス道路の確立を図る必要がある。	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●																			
	低下																					

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1)目的の直結度	4	(直結度高い 1～3 直結度中 4～6 直結度低い 7～9)
(2)貢献度	6	(貢献度高い 1～3 貢献度中 4～9 貢献度低い 10～12)